

業界を超えた連携でケミカルリサイクルの原料を 非食品用途 PET へ拡大

～国内初 飲料用ペットボトル以外の PET 樹脂から飲料用ペットボトルへ再生～

株式会社ファンケルは、キリンホールディングス株式会社(以下 キリン)、株式会社 JEPLAN(以下 JEPLAN)、TDK 株式会社(以下 TDK)、株式会社村田製作所(以下 村田製作所)、花王株式会社(以下 花王)、キリンビバレッジ株式会社(以下 キリンビバレッジ)、ペトリファインテクノロジー株式会社(以下 ペトリファインテクノロジー)、アサヒ飲料株式会社(以下 アサヒ飲料)の 8 社と業界を超えて連携し、飲料用ペットボトルと非食品用途 PET^{※1}を原料とするケミカルリサイクル^{※2}(以下 CR)により、各種ペットボトルへリサイクルする取り組みを開始します。なお、非食品用途 PET を原料に、飲料用ペットボトルとして再生する取り組みは国内初^{※3}となります。

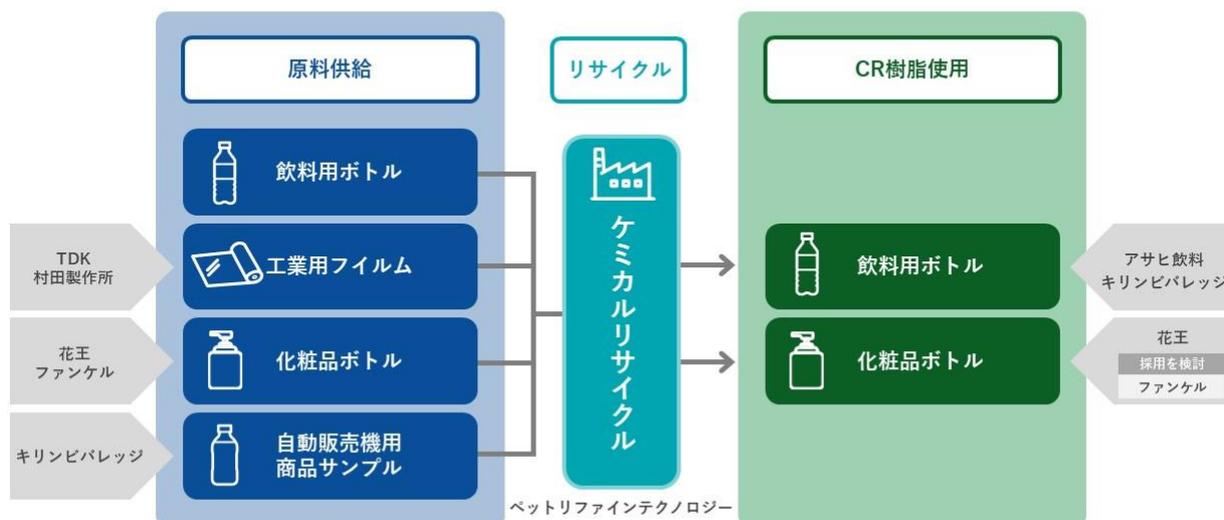
※1 ポリエチレンテレフタレート の略

※2 分子レベルまで分解し、色素や金属などの不純物を取り除くことで、石油由来と同等品質の再生 PET 樹脂へ再生するリサイクル手法

※3 JEPLAN 調べ

本取り組みは、飲料用ペットボトルの CR 原料の一部を非食品用途 PET へ拡大していくことで、これまでのリサイクルでは十分なプラスチックの資源循環には至らないという課題に対応することを目的としています。

本取り組みにおける各社の役割



今回の取り組みでは、使用済みの飲料用ペットボトルに加え、非食品用途として使用された工業用フィルムおよび化粧品ボトル、自動販売機用商品サンプルを CR の原料として使用します。

工業用フィルムは、TDK と村田製作所が、電子部品を製造する際に使用された工業用 PET フィルムの端材をリサイクル材料として供給します。化粧品ボトルは、当社と花王が店頭で回収した使用済みの化粧品ボトルを供給します。そして、自動販売機用商品サンプルは、キリンビバレッジにて商品入れ替え時に不要となったものを供給します。

その後、ペトリファインテクノロジーが CR を実施し、CR 樹脂使用各社に供給します。使用する各社は、CR で再生された PET 樹脂の品質評価を実施した上で、飲料用ペットボトルや化粧品ボトルへの採用を検討していきます。

各社での採用については、キリンビバレッジは 4 月から飲料用ペットボトルの一部にて、花王は 5 月から化粧品ボトルの一部に当原料を一部採用し、製造を開始します。また、アサヒ飲料は 10 月以降の採用を予定しており、当社においても採用に向けた検討をしていきます。

これまでも各社は、PET 樹脂における CR での水平リサイクルに取り組んできました。今回の取り組みは、JEPLAN が有する独自の PET 樹脂における CR 技術に対し、キリンのパッケージイノベーション研究所(所長 松田明彦)が保有する PET 樹脂を食品容器としてリサイクルする際の安全性評価に関する考え方や分析方法を提案し、各社での安全性評価を経て本取り組みに至りました。

今後も、各社が協業することで、さらなる使用済みプラスチックの有効活用と GHG 排出量の削減を目指します。

報道関係者からのお問合せ先

株式会社ファンケル 広報部 / 045-226-1230 official@fancl.co.jp